

## 7 支援金の効果的な活用により継続的に事業展開している事例の紹介

フォローアップ調査の対象団体を中心に、過去に「地域発 元気づくり支援金」を活用し、その後も発展的に事業を継続されている団体の皆様から、最近の活動内容や今後の事業展望等についてお伺いしました。地域づくり活動の参考となるような取組を、各地域からご報告いただいています。

地域 振興局	タイトル	団体名	掲載 ページ
佐久	佐久市に伝わる機織りの伝統文化を残し地域活性化を図る	ぼろ織りを伝えていこう岩村田宿の会（佐久市）	116
上田	山城の魅力発信と保全・活用による地域振興事業	上田広域山城連絡協議会（上田市・東御市・坂城町）	117
諏訪	矢ノ沢地籍ザゼン草の里木道・遊歩道整備事業	有賀林野株式会社（諏訪市）	118
上伊那	入野谷そば復活夢プロジェクト（収量拡大事業）	入野谷そば振興会（伊那市）	119
南信州	「脱炭素社会」の実現（「2050年ゼロカーボンシティいいだ」推進事業）	飯田脱炭素社会推進協議会（飯田市）	120
木曾	木曾地域での実践的なマナビ事業	木曾マナビネットワーク（木曾町）	122
松本	遊ボール（あそぼーる）松本プロジェクト	遊ボール松本運営委員会（松本市）	123
北アルプス	白馬五竜エリアを美しく彩る「白馬五竜ポタニカルプロジェクト」	白馬五竜観光協会（白馬村）	124
長野	生きづらさを抱えた子ども若者の居場所・学びが持続するまちづくり（不登校・ひきこもりサポート事業）	一般社団法人信州親子塾（長野市）	125
長野	減災ナースながの 地域防災事業	減災ナースながの（長野市）	127
北信	民話を通してふるりの歴史をつなぎ、支援を通して地域の命をつなぐ「須賀川を守り・育てる応援隊」	特定非営利活動法人すがかわ暮らし応援隊（山ノ内町）	128

## 佐久市に伝わる機織りの伝統文化を残し地域活性化を図る (ぼろ織りを伝えていこう岩村田宿の会)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

佐久市誌、臼田町史によると、機織りは一家に一台あり、機織りができることがお嫁さんの条件だったと書いてあります。佐久地域に残る機織りと、機織りの歴史を残していかなければと会を発足させて20年ほどになります。女性が、出荷した後の使用可能なくず繭から糸を紡ぎ、家の周りの草木で染め、娘が嫁ぐときに恥ずかしくないようにと農閑期冬の土間で母が織ってくれた母の思いを伝えながら、機織り機や機織りで織った着物の保存、機織りの技術の伝承と地域の魅力の発信を目指しています

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R2	機織り機の組立て技術やメンテナンスノウハウの記録（映像化）、メンテナンス後の機織り機の拠点への配置等を行い、機織り文化や技術の継承を図った。	925 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

- ・佐久大学に機織り機を置いてもらい、機織りクラブを作っていただきました。
- ・佐久総合高校に機織り4台置いていただき機織り体験していただきました。
- ・風越学園に機織り2台置いていただきました。
- ・初谷温泉様に機織り置いていただきました。
- ・毎週火曜日に機織り教室開催しています。
- ・くず繭から糸をとり、家の周りの胡桃や泥田で染め、今の伝統工芸士が驚くような繊細な着物を織った佐久地方の女性。この歴史とうち（家）織の着物機織りを佐久市の有形民俗文化財として登録してもらうため、機織りで織った家織の着物の収集と聞き取り等の活動をしています。登録にあたり、うち織の価値について佐久市に説明していただける専門家を探しています。



【佐久大学での機織りの様子】

### 取組の効果

少しずつではありますが確実に機織りの技術の伝承が進んでいます。機織りを通して、昔の佐久地方の普通の母が、いかに素晴らしかったか誇りを持てる地域に変わってきていると感じます。

### ポイント

- ・小学校から大学まで、学校と連携し、機織りによるまちづくりの意識啓発と人材育成に取り組んでいます。
- ・機織りの技術を覚えていただくには長い時間がかかるので、お弁当を一緒に食べるなど、会の仲間づくりを行っています。
- ・誰かの笑顔のために、機織りを通して地域の皆に喜んでもらう活動もしよう、皆の笑顔から元気もらえるよ、と会のコンセプトとして会員に伝えています。
- ・ぼろ織は江戸時代のSDGsで、これを皆に知ってもらい、支援の輪を広げています。

団体名 ぼろ織りを伝えていこう岩村田宿の会（佐久市）  
 連絡先 会長 岩崎泰治  
 aizomeriku@yahoo.co.jp

## 山城の魅力発信と保全・活用による地域振興事業 (上田広域山城連絡協議会)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

元気づくり支援金を活用し山城サミットを開催した全国山城サミット上田・坂城大会実行委員会が母体となり、上田市、東御市、坂城町の12の山城保存団体が参加する上田広域山城連絡協議会が設立された。

定期的に総会を開催し、団体間の活動情報交換や草刈りなどの山城保存活動について相互協力体制を構築している。また、規模の小さい保存会へのサポートに力を入れ、協議会全体としての活動の幅や内容の充実を目指している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R元	山城の魅力発信と保全・活用による地域振興事業	1,057千円
R2	山城の魅力発信と保全・活用による地域振興事業	3,271千円
R3	山城の魅力発信と保全・活用による地域振興事業	624千円

※R元～3は、全国山城サミット上田・坂城大会実行委員会として実施

山城保存団体が連携して、活動の様子や整備した山城の魅力を広く周知することで、保存団体の構成員の増加や若年化を図るとともに、多くの観光客を呼び込むことを目的として「第27回全国山城サミット上田・坂城大会」を誘致した。事業実施にあたっては、山城保存団体を核とした実行委員会を結成し、令和元年度は「プレ大会」、令和2年度は「本大会」、令和3年度に「アフター大会」を開催した。



【山城ガイドツアーの様子】

### 取組の効果

山城の魅力、整備の周知の他、保存会の意識向上として、有識者及び保存会による山城ガイドツアー実施し、参加者に山城の魅力や整備について周知している。ツアーでは有識者が解説することにより、参加者のみならず保存会も山城の魅力について知ることができ、意識向上につながっている。

上田広域山城連絡協議会では、地域を越え団体が加盟しており、現在も構成団体外からの総会へのオブザーバー参加があるなど、協議会としての発展が見込まれる。

### ポイント

元気づくり支援金事業をきっかけとして協議会が発足し、支援金活用後も自立して活動を進めており、その内容も発展を続けている。今後、更に協議会の活動の幅が広がることで、新たな観光のコンテンツとなる可能性を秘めている。

団体名	上田広域山城連絡協議会（上田市・東御市・坂城町）
連絡先	上田市教育委員会生涯学習・文化財課 0268-23-6362

## 矢ノ沢地籍ザゼン草の里木道・遊歩道整備事業 (有賀林野株式会社)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

古くから諏訪と伊那を結ぶ伊那街道（県道諏訪辰野線）有賀峠を700mほど下った左側に広がる矢ノ沢湿原に自生する『ザゼン草』を保護することを目的に設立され20年が経過しました。開園当時整備された木道が使用不可能となり、改修整備を行い森の保全と山野草保護に努め、多くの市民及び観光客が訪れる景勝地として魅力を高めるため地域住民・子供達と協働の森いっぱい運動に取り組み、自然の大切さに寄与しています。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
令和2年	木道整備と子供の植物見学会	2,877千円
令和3年	木道整備と小水力発電設置	3,495千円
令和4年	木道・遊歩道整備と風力発電設置	2,053千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

元気づくり支援金事業により、ザゼン草公園内の遊歩道と木道の整備を行い、併せて小水力発電・風力発電の設置も行いました。地元で自然エネルギーを勉強できる環境が整っているところは数少ないので、近隣のソーラー発電所と合わせて、市内の子供たちの勉強の場として活用しています。

また、水源環境を整えて多くの住民・子供・来場者が訪れることのできる魅力いっぱい運動に取り組んでいきます。



【 木道完成 】

### 取組の効果

住民により、年2回の森林整備事業への参画を頂き森林を身近に感じて頂き、樹木低層木除去に協力を頂くことで、明るい森の形成を作り出すことを実現できました。併せて地域の子供たちに参加して頂き、茸の菌打ち・カブト虫取り・ソーラー発電所見学等を実施することで、子供たちが森に興味を持ち将来の森林整備の担い手として魅力ある森づくりに取り組みました。

### ポイント

ザゼン草公園の整備を進めるに当たり、住民による協働作業を基本として毎戸1名の参加を必須としたことで、多くの労働力を確保することに結びつきました。園内を流れる一級河川上野川の流域の貴重な水を有効に活用するために、水路改修を行い園内に侵入して山野草を荒らす害獣対策として、小水力発電を導入して水車の回転により発電をして警報音とランプ点灯で害獣を追払う対策を講じた。これらの活動を地域の方に紹介する場として恒例になっている『ザゼン草祭り』に参画をして、多くの来場者へ風力発電も含めた、自然エネルギーの必要性をアピールしています。

有賀林野株式会社（諏訪市）  
小泉吉彦 0266-58-2020  
rinya@po28.lcv.ne.jp

## 入野谷そば復活夢プロジェクト（収量拡大事業） （入野谷そば振興会）

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

高遠・長谷地区に古くから存在していた入野谷在来種というそばの栽培、振興を行っています。このそばは、戦後の食糧難対策のために栽培を奨励された信濃一号の普及により一度絶滅したかに思われていました。その後、有志による搜索により奇跡的に 20g の種が発見され、その中で発芽した 6 粒から種を増やしていき、栽培・収穫・出荷するに至っています。地域の伝統ある食材の入野谷在来そばを絶やさないう栽培し、地域の特産品として振興を図ることを目的としています。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

入野谷在来そばの収穫量をさらに増やし、地域振興につなげるため、品質管理をするための保管用冷蔵庫を設置。入野谷在来そばの発見からのストーリーや提供店舗の紹介等をした HP を作成。

活用年度	事業概要	支援金額
R02	入野谷在来そば振興会拠点施設に保管用冷蔵庫 2 台の設置（30 kg の米袋 56 袋が収納可能） 入野谷在来そばに特化した HP の作成	663 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

最近の活動としては、継続した栽培・販売を実施している他、一般の人へ入野谷在来そばを普及する取組として、入野谷そばを活用した商品開発やそば打ち体験、そば粉を活用したパンやスイーツづくりのワークショップなどを開催しました。また、銀座 NAGANO で PR イベントを実施するなど、県外へも発信を強化しています。

その他に伊那そば振興会や高遠そば組合と協力し、各種イベントの実施等 PR 活動を行っています。

今後の展開としては、丸抜きでの販売を検討している他、商標登録を申請しているので、地元や県内だけでなく全国へ向けた販売を強化していきたいと考えています。



【 入野谷在来そば栽培の様子 】

### 取組の効果

継続した栽培を行うことで収穫量は年々順調に増加しています。令和 3 年度には、取組が評価され第 33 回全国そば優良生産表彰において最高の農林水産大臣賞を獲得しました。

また、商品開発による地域の飲食店での活用、体験会やワークショップをきっかけとした一般の方への販路拡大など、収益を上げプロジェクトを継続していくベースの構築に繋がっていると感じます。

### ポイント

- 伊那そば振興会や高遠そば組合等の団体と協力、連携することで、一団体では実施することが難しい規模の取組を進めています。各活動を面をつなぐことで、相乗的に地域での理解や認知度の向上につなげたいと考えています。
- 多くの方に興味を持っていただけるように毎年新しい取組を企画しています。

団体名	入野谷そば振興会 (伊那市 長谷地区)
連絡先	伊那市 長谷総合支所 農林建設課 酒井
電話	0265-98-3140

## 「脱炭素社会」の実現 （「2050年ゼロカーボンシティいいだ」推進事業） （飯田脱炭素社会推進協議会）

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

飯田脱炭素社会推進協議会は、深刻化する地球温暖化又は気候変動の問題に対して、市民、市民団体、企業等が連携し、地域の環境活動及び経済活動が良好な関係で循環することに配慮しながら地域ぐるみで「脱炭素社会」の実現に向けた活動を推進していくことを目的に活動している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R2	<p>みんなで知ろう！取り組もう！「脱炭素社会」推進事業</p> <p>1 知ろう！脱炭素社会 新しい生活様式へ転換しよう！ 省エネ家電、次世代自動車等の展示及びデモ（体験）により、脱炭素社会に向けた様々な技術を知る機会を提供。 ＜実績＞ ・「2050年いいだゼロカーボンシティ宣言」記者発表来場者へのゼロカーボンシティ普及啓発活動（R3.3.19） ・「こどもエコ講座」受講者へのゼロカーボンシティ普及啓発活動（R3.3.20）</p> <p>2 取り組もう！脱炭素社会 エコライフを推進しよう！ 団体の活動の様子をパネル展示し、エコライフの提案をする。気候変動対策の未来を担う子どもを対象にエコ講座を実施。 ＜実績＞ ・「こどもエコ講座」蓄電式ソーラーカーをつくって走らせよう！（R3.3.20）</p>	190千円
R5	<p>みんなで取り組もう！「ゼロカーボンシティいいだ」推進事業</p> <p>1 みんなで取り組もう！「ゼロカーボンシティいいだ」学習会 気候変動の実態と、その緩和策・適応策に関する学習（講義）及び脱炭素まちづくりカードゲーム（体験会）を実施。 ＜実績＞ ・「ゼロカーボンシティいいだ学習会」（R5.10.27・10.28）</p> <p>2 知ろう！「ゼロカーボンシティいいだ」啓発事業 イベントにブースを出展し、EV活用実演、パネル展示、学習資料配布等により、エコライフの提案。 ・U Know? Market 出展による普及啓発（R5.8.5） ・南信州環境メッセ2023出展による普及啓発（R5.10.28・10.29） ・第15回飯田丘のまちフェスティバル出展による普及啓発（R5.11.3 ※予定） ・ふるさと鼎ふれあい広場・文化祭出展による普及啓発（R5.11.15 ※予定）</p>	374千円 ※予定

### 最近の活動内容と今後の事業展開

#### ○最近の活動内容

- ・「脱炭素まちづくり」、「SDGs de 地方創生」、「2030SDGs」などのカードゲーム体験を通じた学びの機会を、「うごくる。（環境文化都市づくりプラットフォーム）」等、多様な主体と連携して開催し、学びの機会を創出。「参加体験型」として実施し、参加者同士の対話を通じ、主体的行動や協働の重要性を体感していただくプログラムとしている。
- ・各種イベントへ出展し、EVを展示し、活用可能性の提示や、より楽しい活用方法の提案することで、EVの普及による移動手段の脱炭素化の啓発を飯田市等と連携して実施。啓発にあたっては、「実演」により、実際目でみていただくことを重視している。
- ・ゼロカーボンシティの目標年である2050年の主役となる世代である若年層に向け、「こどもエコ講座」を通じた環境教育を飯田市等と連携して実施。楽しみながらゼロカーボンを学び、自分ごととし、行動する人材の育成を目指している。



【脱炭素まちづくりカードゲーム体験】



【こどもエコ講座「森の未来はみんなの未来」】

### ○今後の事業展開

- ・これまで実施してきた「環境学習」、「普及啓発」を、市民、事業者等へ、より届く内容となるようブラッシュアップし、引き続き実施していく。
- ・SNSを活用
- ・エネルギー事業者を会員に迎え、再生可能エネルギーの地域内創出、地域内消費による「エネルギーの域産域消」を実現するため、まずは研究を進めている。

### 取組の効果

- ・「2050年ゼロカーボンシティいいだ」に向かううえで、「環境学習」は「行動変容」、「主体間の協働」につながる第一歩である。継続的に学習機会を提供できていることは一定の成果と捉えている。
- ・事業などの活動内容は自らも発信し、報道もしていただいているが、イベント参加者が、啓発活動で配布したノベルティを使っていただいたり、活動内容を拡散していただくことを目にする機会が多くなり、徐々にではあるが「地域ぐるみ」での行動変容に繋がってきている。
- ・「こどもにとって貴重な体験になった」、「次はいつやるのか」など、協議会活動に対して感謝の言葉や、期待を寄せていただくことが増えた。

### ポイント

- ・毎月定例会を開催し、学習、視察、交流を継続して実施。「集まること」を大切に考え、活動が停滞しないよう努めている。
- ・ゼロカーボンシティ実現という大きな目標、日常と隣り合わせということが実感しにくく難しいと思われがちな目標に対し、まずは「楽しい」、「簡単」ということから関わりを持ってもらえるようエッジの効いた取組を意識している。
- ・継続的に活動していくためには、事業報酬、参加者負担金等による収入増で自己資金を確保する必要がある。講座等の質の向上に努め、事業効果を上げると同時に、受講等に相応の対価をいただくことで、次の活動資金を生み出す好循環を構築し、持続可能な活動となることを目指している。
- ・各種イベント出展時のはたらきかけによる募集や、会員個々が顕著な事業所等を勧誘することにより会員増と同時に活動の多様化、高度化を目指している。
- ・イベントへの出展依頼については可能な限り対応し、学習機会を提供するとともに、協議会以外の主体と積極的な交流を図っている。

飯田脱炭素社会推進協議会（飯田市）  
 事務局：飯田市ゼロカーボンシティ推進課  
 （担当：熊谷）  
 電話：0265-22-4511 内線 5471  
 Instagram：IIDA.DATUTANSO  
 E-mail：sakugen\_co2@city.iida.nagano.jp

## 木曾地域での実践的なマナビ事業 (木曾マナビネットワーク)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

「学ぶ」という1つのキーワードを軸に、地域の「ヒト・モノ・コト」を発信していきます。地域内外の人々が出会える場へ一歩踏み出すとともに、それぞれが自分のチャレンジへの一歩を踏み出せるきっかけ作りを目指します。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R1	・中山間地域での暮らしを考える講座「さとくらしカレッジ木曾」を実施 ・地域の学びを繋げるサイト「fumfum」を作成	832 千円
R2	・中山間地域での暮らしを考える講座「さとくらしカレッジ木曾」を実施 ・木曾地域の新しい「もの・こと」をつくる実践プログラムを実施 ・「木曾地域でチャレンジする若者」と出会えるイベントを実施（現地・オンラインの融合型で実施）	991 千円
R3	・木曾地域の新しい「もの・こと」をつくる実践プログラムを実施 ・実践プログラムの説明会を兼ねて公開講座を実施 ・他地域の山間部での商品開発や情報発信の方法を視察 ・参加者が開発した「地域の新しいもの・こと」と、里らぼの取組について町内にて展示を実施	1,165 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

- ・「地域資源を活かしたプロダクト開発」をテーマに、地域外の講師にきてもらいトークイベント・ワークショップを開催（R4）。
- ・地域の新しい「もの・こと」づくりをしている人・したい人たちが、自身のアイデアを発表し、講師や参加者からフィードバックをもらうオープン相談会を実施（R4）。
- ・地域の資源や人に出会える窓口づくりを実施予定（R5-）。



【 アイデア出しのワークショップ 】

### 取組の効果

- ・地域の資源を活用したもの・ことづくりをしたい人たち（主に若手）が情報共有できた。
- ・オープン相談会では、講師・参加者が一緒になり、自分のプロジェクトアイデアを発表し、フィードバックをした。自分のアイデアをブラッシュアップするだけでなく、アイデアを客観的に捉える機会を創出した。

### ポイント

- ・地域の資源を活用したもの・ことづくりをしたい人たち（主に若手）が情報共有できる。
- ・起業や事業開発の支援者を得られ、次につながるフィードバックを受けることができる。
- ・地域に新しい商品や事業が生まれたり、新規事業者が増えたりすることに繋がる。地域に、新しい商品や事業をつくらうとする人たちを応援しようとする土壌ができ、次のチャレンジにも繋がる。

団体名：木曾マナビネットワーク（木曾郡木曾町）  
連絡先：info@flatkiso.com / 080-7005-8692（担当：坂下）



## 遊ボール（あそぼーる）松本プロジェクト （遊ボール松本運営委員会）

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

本プロジェクトは、松本市の産学民の野球関係者（市内の軟式・硬式・松本大学・松本市野球場）と、保育現場が力を合わせ、子供たちの健全な成長に寄与することを目的とし、松本市内の幼稚園・保育園に出向き、本格的な野球を教えるのではなく、「走る・捕る・投げる・打つ」といった野球の基本動作と、基礎的な動作だけでできる野球ゲームの体験を通して、スポーツの楽しさ、幼児期からの運動習慣の推進を目指して地域全体に元気を創出していくことを目的としています。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園、幼稚園（15園）を12チームにて実施</li> <li>・ ボール遊びを通して、ボール感覚を養うコーディネーショントレーニングや、ティーボールゲーム等</li> <li>・ 11月「ジャイアンツアカデミー」にて遊ボール交流会を実施</li> </ul>	805千円
R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園、幼稚園（19園）を17チームにて実施</li> <li>・ 遊ボール体操や「走る・捕る・投げる・打つ」のトータルトレーニング及びストラックアウト・ティーボールを利用したゲーム感覚でのトレーニング等</li> <li>・ 11月「ジャイアンツアカデミー」にて遊ボール交流会を実施（親子）</li> </ul>	600千円
R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園、幼稚園（25園中22園、3園は新型コロナウイルス感染症対策の為に中止）を21チームにて実施</li> <li>・ 遊ボール体操やベースランニング・だるま落としゲーム・ロケット等</li> <li>・ 遊ボール交流会（親子）、新型コロナウイルスの為に中止</li> </ul>	1,208千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

- ・ 令和4年5月には、遊ボールボランティア上田が発足し、10月からの本格始動を前に、9月に上田女子短期大学附属幼稚園にて体験会を実施（令和4年度は6園実施）
  - ・ 令和5年3月には、北信地区で行われたイベントで、親子での遊ボールを実施しました
  - ・ 令和5年度は、8年目の活動となります
- 現在、市内の保育園・幼稚園45園のうち、27園（認定こども園2園含む）で実施していますが、目標としている、市内全保育園・幼稚園での実施に向け、各地区での参加していただくコーチの人数を増やしながら、多くの園児に楽しさを伝えていきたいと思っております

### 取組の効果

- 保育現場より
- ・ バットと共に回る運動ができるようになった
  - ・ 目的をもちながら走れるようになった
  - ・ 上投げでの動作ができるようになり、投げる動作が目に見えて向上した担当チームより
  - ・ 遊ボールがきっかけで入部する子供も増えている
  - ・ 小学生低学年の入部も少しずつ増加傾向になっている
  - ・ 遊ボールの認知度が向上している



【 ロケット投げ 】

### ポイント

- ・ 松本市の産学民の野球関係者と、保育現場が力を合わせ、活動している
- ・ 野球の勧誘ではなく、遊んで体験し、興味をもち、始めるきっかけづくりであること

団体名	遊ボール松本運営委員会（松本市）
連絡先	遊ボール松本運営委員会事務局（小林）
TEL	0263-46-5555

## 白馬五竜エリアを美しく彩る「白馬五竜ポタニカルプロジェクト」 (白馬五竜観光協会)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

年々スキー客の減少に伴い、スキー以外の楽しみとしてグリーン期の観光開発を行ってきた。

特に白馬五竜スキー場アルプス平に 2000 年に開園した「白馬五竜高山植物園」はグリーン期の観光名所となった。この名所を発信していくには、地域をあげての美観の形成や意識改革が必要であり、小さなことから地域の環境整備をしていくことにより観光客の満足度を上げ、地域住民への啓発活動、ひいては高齢者社会に対応する散歩道として健康増進につなげていくことを目指している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R2年度	県道 33 号線、国道 148 号線沿いの犬川から白馬五竜スキー場への道沿いにアジサイ 380 本を植栽した。 花をテーマとしたイベント「花マルシェ」を同時開催	2,869 千円
R3年度	白馬五竜スキー場からいいもりゲレンデ迄村道 1115 号沿いにアジサイ 700 本を植栽した	726 千円
R4年度	いいもりゲレンデから白馬 47 スキー場迄村道 1115 号沿いにアジサイ 1600 本を植栽した	1,210 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

#### ○活動内容

- ・水やり作業や、草刈り作業を地区住民と行い、保全に努めている。植え直し用に接木をして株を増やして枯れた個所の植え替えを実施。

#### ○今後の事業展開

- ・宿前に蛍が飛んでいる宿泊街にするため、カワニナの育成を実施中。
- ・山麓の環境整備と並行して小遠見山のトレッキングコース整備を行い、身軽に山頂までトレッキングできるようになった。今後さらに山頂から天狗岳へのトレッキングコースの再整備を行いたい。天狗岳整備によって、カクネ沢氷河がよりよく見え、本格登山となる五竜岳（北アルプスの山脈）への登山より、気軽に歩ける 1 日コースのトレッキングコースにしていきたい。

### 取組の効果

- ・アジサイ植栽コースを利用して、春・秋に「サイクルフェスタ」を開催。自転車でのんびり白馬村を周ってもらうイベントを行った。
- ・地元住民の散歩コースにもなり、適度なアップダウンのコースは健康増進にも利用されている。

### ポイント

環境整備は、継続事業なので途中で止めることが出来ない。

地域の理解と協力が不可欠であり、沿線の地主に水やり等の協力、年数回の草刈りを地区をあげて実施している。地元の観光、環境は自分達で守る意識づけをしている。



【 水やり作業 】

団体名 白馬五竜観光協会（白馬村）  
連絡先 0261-75-3700

## 生きづらさを抱えた子ども若者の居場所・学びが持続するまちづくり (不登校・ひきこもりサポート事業)

(一般社団法人 信州親子塾)

### 団体紹介 (私たちが目指しているもの)

現代の学校や社会の中で生きづらさを抱え、発達障害、不登校、引きこもり、自死に至る子ども・若者が増え続けている。今の社会の枠組みにないもの、それは立ち止まって自分自身を考える時間と、大人の良い悪い正しい間違いの判断がなく、人として受容される環境。私たちは生きづらさの要因として、「HSC (HSP) ～極めて敏感な子ども (人)～」の視点に着目し、その敏感さゆえに周りの意を汲んで“自分ではない誰か”になろうと過剰に適応しようと頑張ってきた結果と捉え、当団体では自分を癒し、自分自身を見つめ、本来の自分を取り戻すための時間を保証することを目的に「安心安全に立ち止まれる場所」を作ってきた。まずは失敗も間違いもなく自分で決めたことを安心安全に体験する。それを新たな気づきとして学びにしていく過程を見守る。その中で、自分の軸を再構築し、自己肯定感を取り戻し、好奇心に沿った学びや仕事につながることを目指している。

さらに子どもを取り巻く環境としての大人をオーガナイズするため、親の学習会、在籍校との連携等を積極的に進め、家族丸ごと社会から分断することなく真の自立を目指している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R1	～不登校、ひきこもりの子ども・若者の心の居場所となる～ 【信州子どもカフェ開設事業】 こどもカフェの開設、運動プログラムの実施、子育て支援	1,250千円
R2	～高まるエネルギーを外に向かう活動の力に～ 【スポーツ・野外活動および遊び活動実践事業】 スポーツや遊びによる活動の充実、野外活動の充実、子育て相談	373千円
R3	～一人ひとりの「やりたい」をもとにイベントを計画、速やかに実現するための～ 【野外活動・体験活動応援事業】 屋外活動と宿泊体験 (山や海での宿泊体験、川遊び、海釣り、町探索など)	461千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

会員数が45家庭となり、日常的に20名前後の子ども若者が、入れ替わり立ち替わり信州親子塾で過ごしている。先にいた人は後から入った人を受容しつつも、一人ひとりが自由と責任のもと自分の選択で自分の時間を過ごしている。

次の段階として、外の世界や未知の世界に目が向き始め、仲間とともに未知を体験したい気持ちも高まって、湧き出る好奇心や探究心をもとにした主体的な学びの姿が見られている。

それに伴って、集中した時間を過ごせて、人の増加にも対応できる場所が必要となり、現施設の老朽化もあって新たに第二拠点となる場所「まなびや」として近くの元モデルハウスを借りて始動し始めた。こちらの場所は、住み分けや意欲を具現化するイベントの企画にはベストな環境であるが、配管や配電等大幅な改修工事が必要で、現在助成金等での改修を早急に検討中である。

今後は「まなびや」を探究的および協同の学びの拠点として、より個に応じた自立と学びの在り方を模索しながら、新たな学びの場として学校や家庭とも共同しながら実践を重ね、発信して行きたいと考える。さらに現段階におけるニーズとして、「まなびや」にシェルターとしての機能を持たせ、夜間の相談や緊急避難先として宿泊にも対応できる場所として整えていきたいと考えている。

これまで福祉の仕組みを使わずに自力でやってきたのは、「支援される側を作ることを防ぐため」もあり、今後は「障害」からの脱却も視野に入れた真の自立に向けた場であり続けたいと考える。そういった世の中にならぬ場所のスタートアップ時において、元気づくり支援金をいただけたことは大変大きな一助となった。



【 サップで犀川クルージング 】

## 取組の効果

### 【こどもカフェの設立による効果】

不登校や引きこもり等、公的機関の狭間でどこにも合わずどこにも繋がらなかった子ども若者にとっての安心安全な居場所となり、何人もの命が救われた。希死念慮を持つ子ども若者が自分を取り戻し活き活きと生き始めており、長野県の自殺率を下げている自負がある。

「15歳から先はない」と絶望していた方、「20歳以上は生きられない」と駆け込んできた方が、そこから2年後には進学や就職を果たして、現在も続いている。入塾前にリストカットと入院を4年間繰り返してきた男性、精神科に20年通い続けて薬が最大量となっていた男性とも、入院や薬の必要がなくなり、それぞれグループホームの支援員として2年以上働きながら自活している。

### 【自立に向けた体験活動の効果】

新しいことや未知のことに強烈に不安を抱き、野外活動や宿泊体験がほぼない状態のHSC（HSP）の挑戦を、活動費補助により本人のタイミングや本人の選択を「待つ」環境を整えることができた。これにより、「自分で決める」「自分を超越する」という自立に向かう姿につながっている。

また、これら適時性のある野外・体験活動により、対人恐怖、視線恐怖が払拭されて自信となり、自分らしく学校復帰や進学、就職を決める子ども若者が増えている。

### 【大人の意識の変容】

学校や社会、親の意識の変容が見られる。学校の先生はもとより、近隣のお年寄りや周りの企業の方も気軽に立ち寄れる場となっていることで理解が進み、こういった場の必要性が語られるようになった。学校や親の理解により、子どもの安心の場が増えている。

## ポイント

- ・活動が継続的に展開してきているのは、自分たちが何かしようというのではなく、子どもたちの声を聞いて必要なことを必要なタイミングでやり続けてきた結果である。それが子ども若者の姿にも結果として現れており、必要とされる場になっている。
- ・大人がやれることは、その人が持つ本来の力を信じて見守ること。余計な手出しや口出しをせず、ただひたすら動き出しを待って、相手の要求に応じて支えることに徹する「大人の在り方」がポイント。
- ・月に一回企画型子どもカフェを開催し、子どもがのびのびと過ごせる時間を提供、子育てに悩む地域の母親の相談場所となり、不登校のほか、親子関係や学校との問題を未然に防ぐことにつながっている。
- ・支援側と支援される側という関係性ではなく、会員みんなで作り上げる場として、自分のできごとや才能を提供し合う場となっている。また、寄付活動や募金活動等にも積極的に取り組んでもらっている。
- ・学校とは毎月本人の状況について文書にて詳細を共有。年に数回支援会議や情報共有の会を開き、関係者だけでなく管理職やコーディネーターといった学校を運営する側の職員にも参加いただきながら、子どもを中心に据えた環境を整えている。
- ・親向けの学習会を毎月定期的に開催し、子どもとの向き合い方や、コミュニケーションの違い等を丁寧に紐解いている。毎週火曜日には親のシェア会を開き、自分の中にある固定観念と向き合い互いに吐露し合う時間を作り、親自身の悲しみや苦しみを癒す時間を設けている。

団体名	: 一般社団法人信州親子塾 (長野市大字東和田 714 番地 8 光ビル 2 F)
連絡先	: 齋藤光代 電話 080 (3014) 8154 E-mail <a href="mailto:oyako.juku@dream.jp">oyako.juku@dream.jp</a>
Webサイト	: <a href="https://www.oyakojuku.net">https://www.oyakojuku.net</a>

## 減災ナースながの 地域防災事業 (団体名 減災ナースながの)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

災害時に地域で暮らす人たちの安全を守るために、自分に何ができるのだろうか。そんな気持ちを持っている人や、この先の長野のことを考える人、障がいを持った人、ハンディキャップを抱えて社会生活に不自由を感じている人、医療の専門職だけでない、地域で暮らす皆さまと一緒に長野の防災・減災を考えていきたいと思って、活動しています。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R2	2020 減災ナースながの 地域防災事業	428,000 円
R3	2021 減災ナースながの 地域防災事業	840,000 円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

2022年度は、医療的ケアを必要とする方の避難の検討、電気自動車を用いた避難訓練を長野県内の小中学校で実施しました。2023年度は、長野県社会福祉協議会と連携し、防災啓発イベント「誰も取り残さない防災を考える日」で、人工呼吸器と医療的ケアの必要な人の災害時支援の紹介をしました。また、日本小児看護学会でも、「高度な医療的ケアが必要な子どもの災害訓練の実際」について、発表しました。今後は、専門職のメンバーが自治体や企業に出向いて出前講座を行っていく予定です。



【「誰も取り残さない防災を考える日」  
イベントにて11月3日】

### 取組の効果

2年間の活動実績は、現在、様々なところで活かされています。2021年度、医療的ケア児支援法ができたこともあり、長野県内外から、「学校における災害時の実際」について活動実績のある「減災ナースながの」チームが注目されるようになりました。取組の効果として、熊本大学の災害医療の専門家や、長野県内の自治体と連携し、災害時支援についての学習会を実施できるようになったことです。

医療的ケアを必要とする人にとって、電力は24時間欠かせないものであり、災害時の電力確保は喫緊の課題です。長野日産自動車株式会社様にご協力いただき、電気自動車を使用して電力を確保し、実際に人工呼吸器や加湿器の作動を試行した活動が、長野県内各地で実施されるようになったことも大きな成果です。さらに、日本小児看護学会から、2023年度（第4回）災害支援事業の助成金を獲得できたことで、継続して「医療的ケア児の住む地域、学校との災害時避難体制の構築」の展開ができていることも、これまでの取組の効果です。

### ポイント

「もしものとき、ながのを支える人になろう」が、私たちと地域の皆さまをつなぐ「合言葉」です。2019年、災害を経験した私たちだからこそ、課題解決に向かって、共に歩めるのだと思います。

団体名 : 減災ナースながの（長野県長野市栗田 2277）  
 連絡先 : 清泉女学院大学 看護学部看護学科  
 減災ナースながの会長 北村千章  
 電話 090-4942-9020  
 E-mail [kitamura@seisen-jc.ac.jp](mailto:kitamura@seisen-jc.ac.jp)  
 Web サイト : <https://gensainurse-nagano.org/s>

**民話を通してふる里の歴史をつなぎ、支援を通して地域の命をつなぐ  
「須賀川を守り・育てる応援隊」  
(特定非営利活動法人すがかわ暮らし応援隊)**

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

平成 27 年から、須賀川地区の地域資源を有効活用し、地域の暮らしを応援、都市との交流を通じた地域活性化により住民が元気になることを目的に活動しています。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H28	須賀川地区における高齢者世帯の除雪・排雪作業支援のため、除雪機を整備し支援を行った。	6 7 1 千円
H29	空き家の古民家を借り受け「ぼんじゃもん」と名付け、片付けから内装に至るまで自主改修をし、移住体験ツアーを実施した。	1, 3 6 9 千円
R 2	地区内にフットパスコース「盆じゃものコース」を開設。昔の街道「とりで街道」を整備活用し、地区内を周遊するようコースを配置、来訪者と住民との交流を通して地域活性化に導くために体験会を実施した。	6 9 5 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

令和 5 年から、NPO 法人として新たにスタート。冬期間は、これまで通り高齢者世帯の除雪や雪降ろしの支援を実施。

また、他団体とも協力してフットパスを開催した。新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、3 年ぶりに地区の公民館事業としても復活、地域を知る良い機会だとして喜ばれた。

次年度は、これまで半日で終了していたフットパスを終日行い、コロナ禍で休止中だった移住体験宿も活用した取り組みを計画しています。



【 9/17 北部公民館フットパス 】

### 取組の効果

- ・高齢者世帯の支援では冬の支援に加え、夏の草刈りの依頼が増えて荒廃農地の拡大を防ぐことにも繋がった。
- ・私たちの活動を理解した方から新たな寄付の申し入れや入会の申込みがあった。
- ・フットパスが地域の小学 3 年生のふるさと学習の場として、恒例行事として行われている。
- ・移住支援では、行政をはじめ地域住民にも理解が深まり移住者の増加にも繋がった。

### ポイント

地域づくりは「試行錯誤」だと思います。計画したら「実行」、実行後は必ず「検証」を行い、失敗だとしても「原因を究明」、断念することなく「持続的な挑戦」が大切と考えます。

また、個人のボランティアには限界があり事業を継続していくには一定の収入が見込める収益事業が必要であり、経営的に補完する目的で今年度から薪販売事業を始めました。

団体名：NPO 法人すがかわ暮らし応援隊  
連絡先：代表 外山 俊  
ホームページ <https://sugakawa-kurashi.ytown.net>  
e-mail [shunren@sirius.ocn.ne.jp](mailto:shunren@sirius.ocn.ne.jp)